

ゴーヘッドズ 速報

Goaheads

第40号 平成23年11月17日

光希嬉しい初の柵越え・・・

6回の猛攻で勝負を決めた！

	1	2	3	4	5	6	7	R
W	1	0	0	0	1	0	2	4
G	1	0	0	0	2	5	×	8



11/17日(土) 雨が降りしき中、2012KSC決勝を、ワイルドピッチを大黒に迎え行った。今日の予報では、晴れ間が期待出来ないだけに、何とか、雨だけは上がって欲しい、と願いつつプレイボールとなった。今日は後攻、前節非常に素晴らしい投球を見せた達脇が、初回のマウンドに上がった。が、今日は何かビリっとしない内容、先頭にいきなりボール3つ、その後一つはストライクにしたものの、結果四球で出塁を許した。二番打者にも同様に四球で出塁を許し、無死一・二塁と早くも場面はピンチに変わった。三番を遊ゴロに斬り、併殺かと思った瞬間、ボールがセカンドの手に付かず、投げれず、一死一・三塁へ。続く4番が初球を叩いたが、これをショートがハンプルでこの間にホームイン、先制点を許してしまった。続く打者には、この回3個目の四球で出塁、そして後続には、レフトに打球を運ばれ、この打球を野手が捕球出来ず、しかし、今日センターに入ったかあきが素晴らしいバックアップを見せ、ホームへの捕殺で最少失点の1点で初回を切り抜けた。この裏の攻撃、先頭かあきが四球を選択し、出塁すると、間髪入れずに二盗を決める、更に三番打者の時に、三盗を決めたが、捕手からの送球が逸れ、我がチームも芳せず、1点を返し同点とした。その後、達脇は依然としてビリっとしない内容、二回には二個の四球で出塁を許したが、哲也が冷静なプレーで0封。三回には立ち直ったか三者凡退、しかし、4回には、またもや二個の四球を与えたが、守備が崩れずこの回も0封とした。ゲームが動いたのは、5回の表、二死後当たっている三番打者にレフトオーバーの2ベースを放たれた。続く4番が放った打球は、三ゴロ、これをサードが裁いたが、ファーストが捕球出来ず、この間に1点が入り、またもやリードを許す展開となった。しかし、次打者が左前に放った打球で一塁より一塁ホームを目指した走者を、きっちり、連携でホームで刺した。1点をリードされた裏の攻撃、あっさり二死を取られたが、光希が三球目をフルスイングし、打球はレフトの頭上を運かに越し、値千金のホームランで同点とした。そして、この一撃で目が覚めた打線はついに6回に爆発した。3つの長短打と四球を絡ませ、二点を挙げたところで、相手投手が交代、代わった投手にも牙も向け、二連続安打と失策を絡め、この一回一挙5点を挙げ、ゲームを手中にした、と思った矢先、最終回にまだ動きがあった。マウンドは6回から林に代わる。先頭を投ゴロで一死、次打者には、三塁線を抜かれ出塁、後続の打球は、打ち取った打球であったが、サードのセカンドへの送球が悪送球となり、これで一死一・三塁、そして、この場面、WPで三塁走者がホームイン、更に次打者の時にも、WPで進塁を許し、続く打者の内野ゴロの間に二点目、何か嫌な感じの最終回だが、そうは言っても二死まで得る。スリーアウトかと思った打球を何とセンターがクラブから出してしまふ。うーん、しびれる、と感じた次打者の打球はまたもや、センターに、これを今度は、センターががっちり捕球し、2年ぶり3回目のKSC優勝を決めた。打線の爆発は非常に嬉しい限りだが、与四球7個、ましてや失策6個では、勝てるゲームも逃してしまいかねない内容。打線は水物だけに、やはり守備においては、きっちりこなそう。そんな中で、今日久々のマスクを被った二回の哲也の守備は冷静、さらに、たかあきからの返球、連携による光希のバックホームなどは、ナイスプレー、こんなプレーの中で失策は、本当にイージーな処理だけに、何度も言うが、先ずは守備で流れを作りましょ・・・て、感じですね。